

なみえ のいま

第11号
令和5年10月

つながり維持の場の創出

休憩所

お飲み物をご用意
しております
お立ち寄りください
(無料です)

4年ぶりに大平山霊園でお盆のお墓参り休憩所を開設。
テントの中で涼みながら、再会と交流の場となりました。

津島 お茶飲み交流会を開催



▲津島に興味や関心がある方の参加也大歓迎！

特定復興再生拠点である津島地区の一部にて避難指示が解除され、津島住宅団地へ入居された方の新たな生活もスタート。そこで月に一度のペースで『お茶飲み交流会』と称して、住民の方はもちろん、津島と避難先を行き来されたり一時帰宅をされている方にも気軽に立ち寄りいただける機会をつくっています。参加された方は「ほかの入居者とお話しできて安心する」「いままで一番住み心地がよい」など交流を楽しまれています。

大堀 末森で神社再建



▲再建した香取神社を内覧する皆さん

大堀地区にある大堀相馬焼物産会館『陶芸の杜おおぼり』が特定復興再生拠点として避難指示が解除、6月には13年ぶりの大せとまつりも開かれ、避難先などから多くの住民が足を運びました。また、末森地区も特定復興再生拠点として解除され、帰還者はまだ少ない状況ですが香取神社の再建工事が完了。9月1日には竣工式と合わせ13年ぶりとなる秋の例大祭が開催され地域の方が集う場となりました。

苅野 室原で秋祭り開催へ



▲再建が進む八龍神社

苅野地区で帰還困難区域だった室原でも、特定復興再生拠点では避難指示が解除。八龍神社と秋葉神社の再建も進み、秋祭りの開催に向け行政区の関係者が集まって段取りを進めています。当事業では神社の祭りである遷宮祭について、震災以前の古い写真を中心とした写真展を計画、昔を懐かしんだり地域への想いを感じてもらえるよう準備を進めています。

令和5年度上期 町内の動き

浪江町内の帰還困難区域でも特定復興再生拠点で3月31日、避難指示が解除となり、新たなつながる場の創出も試みられるようになりました。当事業で支援した活動や取材したものなど、町内各地の上期の様子から一部を紹介します。

まちづくりなみえのホームページ内ブログでも地域の情報を発信していますのでご覧ください。



浪江 再開2年目となる盆踊り



7月22日は、樋渡・牛渡行政区の八坂神社にて昨年同様に昼間開催で盆踊りが実施されました(写真左)。田植踊と神楽の奉納ののち、午後に踊りが開始。盆唄に加え笛や太鼓のお囃子が響き渡り、踊りの輪が大きくなっていきました。

川添にある国玉神社の盆踊り大会は8月14日に開催(写真右)。

川添北、川添南、佐屋前、上ノ原各行政区の区長も運営、神楽の演目への参加、盆踊りと大忙し。当日は屋台の出店もあり、子どもたちが笑顔で楽しむ様子が印象的でした。



幾世橋 集合住宅で定期清掃



▲鳥の糞害に悩まされている4・5階の廊下

幾世橋地区にある集合住宅では、ことし5月から月に1回のペースで住民が協力して団地内の清掃や周辺の環境整備に取り組んでいます。クリーン作戦終了後には、お疲れ様会と称して飲食しながら交流することで、クリーン作戦の感想を共有し課題を整理するだけでなく、住民交流の新たなアイデアも生まれています。

請戸 中浜で石碑建立



▲完成した石碑を前に集う皆さん

中浜行政区では大震災祈念碑が完成。6月11日におこなわれた竣工式には20名の皆さんが町外の避難先から集いました。石碑は「50世帯がこの地で暮らしていたことを伝えたい」との想いで、数年前から計画されていたものです。請戸地区では、整備が進められている復興祈念公園や、苕野神社も再建が進められ今年中には完成が見込まれるなど、住民の方が立ち寄れる場が少しずつ増えています。

津島地区での肉まつり開催に向けて

当事業では津島の方からも地域に関するお話をうかがっています。その中で、原発事故前の思い出として「地域の運動会は楽しかったなあ」「秋に開かれた肉まつりでは、皆でわいわいと盛り上がった」など以前の交流事例を知ることができました。

「最初から難しい話をするのではなく、肉まつりのような楽しい催しで再会し交流するのはどうだろう」そんな意見も聴こえてきました。

4年近く前、各行政区の区長が集まる津島の区長会に出席し、避難中の津島の皆さんのつながり維持やコミュニティ再生の場となる「肉まつりのような楽しいイベントの復活」を提案。具体的な計画を考えるなど、開催へ向けた動きを後押しする中で、新型コロナウイルスの問題が発生。「今年は難しいな」と毎春ごとに開催を見送る中、特定復興再生拠点の避難指示解除も近づいてきました。



▲津島区長会で議論



▲テントを立て器具や食材の確認

「拠点が解除され、コロナが落ち着くようであれば、津島で肉まつりをやるのが最高じゃないか？」といった意見を区長よりいただきました。

加えて浪江町でも、解除された津島の活性化へ向けた取り組みとして、肉まつりを町事業としておこなう方向となりました。

開催にあたっては住民の声もしっかり取り入れながら進めよう、と区長および区長推薦の方々による実行委員会が立ち上がり、官民協働の取り組みとして進められています。

毎月開かれている委員会では、20名ほどが集まり開催に向けて話し合いなどを進めており、「前の日から泊まり込みで丸焼きしたな」「一度雪が降る中でやったこともあったな」など思い出話にも花が咲いています。

浪江町「さあ行くべ！ つしま肉まつり」は11月5日(日)につしま活性化センター屋外会場にて開催します。現在、実行委員会の皆さんが毎月の打ち合わせや事前の段取りなど、熱心に準備を進めています。

なお、肉まつりではボランティアでお手伝いができる方を募集しています。特に若い世代の皆さんで、今後津島に関わっていきたいという方は、ぜひお気軽にまちづくりなみえまでお問合せください。



▲原発事故前の肉まつりの様子

なみえのいま 第11号（令和5年10月1日発行）

発行・編集：一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業

〒979-1513 浪江町大字幾世橋字大添52-1

Tel：0240-23-7530 Fax：0240-23-7531 HP：<http://www.mdnamie.jp/>

▼ HPはこちら



当事業の活動広報誌「なみえのいま」は年度内2回（10月と3月）発行しています。

バックナンバーはホームページに掲載しており、QRコードを読み取ることでアクセスできます。

また、道の駅なみえや浪江駅構内なみえまるみえ情報館等にも配置しています。